

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 22 日現在

機関番号：37114

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26861826

研究課題名(和文)大規模多施設間での歯科治療・メンテナンス中断の原因及び患者背景の質的・定量的解析

研究課題名(英文)Qualitative and quantitative study on the background of patients who break off going dental clinic

研究代表者

加藤 智崇 (Kato, Tomootaka)

福岡歯科大学・口腔歯学部・助教

研究者番号：40724951

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、歯科治療の中断を防ぐため、中断患者の背景を解析することを目的とした。協力歯科医院の中断患者に電話インタビューを行い、93名中5名から回答を得て質的に解析した。この結果を用いて患者背景を調査するアンケート項目を作成した。アンケート調査はweb上で中断患者と歯科を定期受診する患者にアンケート調査を実施した。結果、中断患者は、健康意識が低く、歯科に対してネガティブな感情を持つ者が多い可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to explore the background characteristics of patients who stop going to a dental clinic. In participating dental clinics, a telephone interview was conducted with patients who had stopped going to the dental clinics. Five of 93 patients replied, and their responses were qualitatively examined. Using these interview results, we developed an internet-based questionnaire on patient background characteristics. A total of 225 treatment cessation patients and 236 maintenance patients replied. The most commonly cited reason for cessation was symptom improvement (46.2%), followed by a busy work or schoolwork schedule (30.7%) and financial burden (14.7%). Regarding the patient background, treatment cessation patients who fear impression about dental treatment. In conclusion, dental treatment cessation patients had more negative feelings about dental treatment than treatment maintenance patients.

研究分野：歯周病学

キーワード：中断患者 患者背景 メインテナンス

1. 研究開始当初の背景

歯科の一般的な臨床現場では、受診患者内にある程度の者が治療中断に至ることを経験する。治療の中断は、患者本人の健康はもちろん、医療経済学的にも大きな悪影響を及ぼす。また、メンテナンスの中断は、歯周炎の主要なリスクファクターでありオッズ比で3.2と喫煙の2.8より大きく、治療やメンテナンスの中断の原因究明は極めて重要である。しかし、現在、国内において治療およびメンテナンス中断患者の背景に関する研究は非常に乏しい。今回、治療およびメンテナンス中断に至る患者の背景因子の探索のため、質的研究を行い、その後、アンケートを用いて定量的な研究を考えた。

我々はこれまで、全国26か所の研究協力施設の支援を受け、三千名以上の患者の経年的調査を実施しており、調査に同意を得た患者の口腔関連健康情報を解析してきた。今回、治療およびメンテナンス中断患者という通常的手法では把握しにくい集団も我々は特定できており、本研究を予定するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、患者が歯科治療やメンテナンスを中断する原因および背景を質的、量的研究によって明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 質的研究

アンケート調査(量的研究)に先立ち、その調査項目の策定のため、質的研究を予定した。対象者は、「定期的なメンテナンスと口腔関連QOLの関係」の研究に参加した患者の中で、2013~2014年に治療またはメンテナンスを中断した93名の患者とした。この対象者の中で研究参加の同意を得られた患者に電話インタビューを行い、半構造化インタビューにより中断背景を調査した。電話インタビューの内容は、「患者の受診理由」、「治療またはメンテナンスの中断理由(お金、

時間、場所、診療環境などの項目ごとに体系化)、そして「健康観・生活観」についてオープンエンドの質問をおこなった。電話インタビュー時に会話を録音し、テキスト化をおこなった。このテキスト化した会話録を質的研究の解析方法であるSCAT(Steps for Coding and Theorization)を用いて解析し中断患者の背景を解明した。

(2) アンケート調査(量的研究)

質的研究によって、中断患者への直接的な調査が極めて難しいことが明らかになったため、間接的な調査としてweb調査による量的研究をおこなった。

対象者

インターネットリサーチ会社に登録されている調査対象者(モニター)の中で、歯科治療を中断したままの225名のモニター(中断群)と歯科医院のメンテナンスを継続して受診している236名のモニター(受診群)とした。

アンケート内容

中断理由について(中断群のみ)

転居した、医院までのアクセス(距離・診療時間帯)が負担であった、症状が良くなった、担当の歯科医・スタッフが辞めた、金銭的に余裕がなかった、歯科医院に不信感があった、治療が怖いから、仕事・学業で忙しかった、育児・介護で忙しかった、大きな病気にかかった、その他

以上の項目から上位3つの選択とした。

患者背景について

健康を意識して食生活や体力づくりなどに気にかけている、休日や時間があるときに、ボランティア・習い事等で活動的に過ごしたと思う、これまで歯科医院を受診した全体的な感想として、スタッフに好感を持つ、これまで歯科医院を受診した全体的な感想として、治療費が高いと思う、これまで歯科医院を受診した全体的な感想として、医院にアクセス(距離・診療時間帯)しやすいと思う、お口

の写真や歯周病の検査など様々な記録を取ることがありますが、自分にとって有益に感じている、歯科医院に家族ぐるみで受診しようと思う、歯科への定期受診（お口の掃除や歯石取り等）は必要だと思う、歯科に対して「きれい」「優しい」「すっきりする」等のイメージがある、歯科に対して「怖い」「痛い」等のイメージがある

以上の各項目について「あてはまる：1点」「ややあてはまる：2点」「どちらでもない：3点」「あまりあてはまらない：4点」「あてはまらない：5点」の5段階の選択として、その平均値を各群で求めた。

統計解析

背景について、各項目点数を中断群と定期群と Mann-Whitney U-test を用いて比較した ($p < 0.05$)。

4. 研究成果

(1) 質的研究結果

インタビュー対象者

93名のうち、13名は死亡しており38名は転居等によって連絡不能であった。連絡のつく42名にインタビューの依頼をおこなったが37名が拒否し、5名が承諾した。

中断理由

患者1：主訴の部位が解決されたから

患者2：不信感があったから

患者3：担当の歯科衛生士が辞めたから

患者4：より近い歯科医院を選んだから

患者5：より近い歯科医院を選んだから

患者背景（SCATによるインタビュー分析）

患者1

自覚症状あるときのみ受診、主訴のみの解決で受診しなくなる、食生活を気にしている、口腔清掃の習慣あり、歯科治療費を高いと思っている、技術が重要と思っている、若いスタッフに不安、若いスタッフに期待

患者2

自分の都合で受診、歯科医院までの近さを重視、運動や食生活にこだわりなし、口腔清掃

の習慣あり、歯科治療費を高いと思っている、歯の清掃は1回で終了したい、歯科に不信感がある、技術やコミュニケーション力が重要と思っている

患者3

歯科に恐怖心ある、運動・食生活を気にしている、口腔清掃の習慣がある、歯科に不信感がある、治療費は負担に感じない、自分の都合で受診

患者4

歯科医院までの近さを重視、食生活を気にしている、自分の都合で受診、治療費は負担に思っていない、自分のペースで受診したい、忙しい歯科医を大変に思っている、全身疾患がある

患者5

全身疾患がある、歯科治療に制限がある、自己管理意識が高い、食生活を気にしている
歯科に恐怖心がある、歯科医のコミュニケーション力を重視している、歯科治療費が負担と思っていない

質的研究のまとめ

質的研究を通じて、中断患者の背景として、場所・立地が原因、近さを重視する場合、症状ある時だけ、歯科に恐怖心や不信感を抱いた場合が見受けられた。これらの結果をもとに量的研究をおこなった。

(2) 量的研究（web調査）

対象者

中断群 225名：平均年齢 56.3歳、男性 115名、女性 110名

定期群 236名：平均年齢 56.6歳、男性 123名、女性 113名

両群の特性について、職種、未既婚、子供の有無、居住地では有意な差がみられなかった。中断群における過去10年間の中断の回数は、1~2回が161名（71.6%）、3~5回が41名（18.2%）、6回以上が23名（10.2%）であった。

中断理由について（中断群のみ）

『症状が良くなった』が最も多く、次に「仕事・学業で忙しかった」、「金銭的に余裕がなかった」、「転居した」と続いた。

表 1 中断理由(複数回答可)

	人数	割合(%)
症状が良くなった	104	46.2
仕事・学業で忙しかった	69	30.7
金銭的に余裕がなかった	33	14.7
転居した	28	12.4
歯科医院に不信感があった	26	11.6
距離・診療時間帯が負担	22	9.8
治療が怖い	15	6.7
大きな病気	10	4.4
担当の歯科医・スタッフが辞めた	6	2.7
育児・介護で忙しかった	6	2.7
その他	9	4.0

患者背景

各質問項目を5段階評価し点数をつけた。両群の平均値は以下の通りである。

表 2 患者背景

	中断群	定期群	p値
健康的な生活(食生活、運動等)を意識している	2.26	2.20	0.349
活動的(ボランティア、習い事等)に過ごしたいと思う	3.39	3.09	0.009
歯科医院のスタッフに好感を持つことが多い	2.97	2.74	0.015
歯科の治療費は高いと思う	1.96	2.11	0.119
距離・診療時間帯に困る事はない	2.46	2.20	0.006
お口の写真、歯周病の検査等が必要であると思う	2.33	2.10	0.003
歯科医院には家族ぐるみで受診しようと思う	3.14	2.67	< 0.001
歯科への定期受診は必要だと思う	2.31	1.69	< 0.001
「きれい」「優しい」「すっきりする」のイメージがある	2.64	2.31	< 0.001
「怖い」「痛い」等のイメージがある	2.51	2.78	0.028
合計	27.03	24.101	< 0.001

は逆転項目

(4)まとめ

質的研究の結果より歯科に関して負の印象がみられる会話が多かった。一方で、歯科医療の今後に期待する声もみられた。今回の質的研究について、回答率は11.9%(42名中5名の承諾)となり、連絡不能は対象者の半数を超えた。以上のことから、中断患者に直接調査をおこなうことが極めて困難であることも明らかになった。

量的研究の結果より、中断理由について、症状がよくなったこと、仕事・学業で忙しかったことが上位の理由であった。また、背景について、ほとんどの項目で中断群と定期群とに有意な差が認められた。興味深いことに、健康への意識には有意差がなく、歯科に関するイメージや接し方に差があった。

以上の研究結果より、中断の原因は、症状の改善や多忙、金銭的な問題が示唆された。また、中断患者の背景には歯科に対する負のイメージを持っていることが多いと示唆された。よって、受診患者において、歯科にネガティブな感情を持つ者に関しては、中断のおそれがあるため慎重な対応が必要であると思われる。

<引用文献>

Clarke NG, Hirsch RS. Personal risk factors for generalized periodontitis. J Clin Periodontol. Feb;22(2):136-45. 1995
 Otani T. "SCAT" A qualitative data analysis method by four-step coding: Easy startable and small scale data-applicable process of theorization. Bulletin of the Graduate School of Education and Human Development. Nagoya University. 2007-2008;54:27-44

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

Kato T, Sugiyama S, Makino M, Naito T, A qualitative study on the background of long-term maintenance patients at a private Japanese dental clinic, 査読有、BMC Oral Health、2016、1-6、DOI : 10.1186/s12903-016-0203-2.

加藤智崇、杉山精一、牧野路子、内藤徹、長期メンテナンス受診患者における患者背景の質的解析、査読有、日本歯科保存学雑誌、57巻、2014、268-275

加藤智崇、牧野路子、杉山精一、豊島義博、南郷栄秀、内藤徹、一般歯科医院における長期メンテナンス患者分析、日本ヘルスケア歯科学会誌、査読有、14巻、2014、18-24

〔学会発表〕(計8件)

加藤智崇、若手ミニシンポジウム 高齢者歯科教育のすすめ、日本老年歯科医学会第27回総会学術大会、6月19日、2016年、徳島
加藤智崇、瀧内博也、杉山精一、牧野路子、野口哲司、内藤徹、日本人における喫煙由来歯肉着色の年齢による差異、第59回春季日本歯周病学会学術大会、5月20日、2016年、鹿児島

加藤智崇、瀧内博也、山口真広、内藤徹、薬剤性歯肉増殖患者に対する訪問診療での非外科的治療の1症例、第58回日本歯周病学会秋季学術大会、9月13日、2015年、浜松
加藤智崇、山口真広、瀧内博也、内藤徹、接触痛によりプラークコントロールに難渋した高齢の慢性剥離性歯肉炎患者の1例、第26回日本老年歯科医学会学術大会、6月12日、2015年、横浜

加藤智崇、杉山精一、内藤徹、喫煙由来の歯肉着色に対する禁煙の影響 - 口腔内規格写真を用いた新規評価法による歯肉着色の検討 -、第58回日本歯周病学会、5月15日、2015

年、千葉

Kato T, Sugiyama S, Makino M, Naito T, Qualitative study on the background of long-term maintenance patients, 第93回IADR、3月11日、2015年、Boston、USA

加藤智崇、山口真広、内藤徹、薬剤性歯肉増殖患者に対する訪問診療での非外科的治療の1症例、第141回日本歯科保存学会秋季学術大会、10月30日、2014年、山形

加藤智崇、内藤徹、杉山精一、長期メンテナンス受診患者の受診理由および背景の質的分析、第57回日本歯周病学会秋季学術大会、10月19日、2014年、神戸

〔図書〕(計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 智崇 (KATO TOMOTAKA)
福岡歯科大学・口腔歯学部・助教
研究者番号：40724951

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし